



The power of skating

目指せオリンピック！

君たちも
トップアスリート！！

中標津スピードスケート少年団 募集要項





これを讀む父兄の方々へ

子供の可能性を信じ、 環境を与えるのは親。

活躍する可能性のある環境を判断するべきも親の役割です。

近年、スポーツ競技に対する専門化が進み、通年を通してひとつの競技に従事させる傾向が見られます。ゴールデンエイジ期における子供の運動能力の発達にとって大変大切な時期であり、その時期に色々なスポーツに取り組む事で、クロストレーニング効果があることが分かってきています。

日本全国の中でもこの地域は、まれに見るスケート競技適合地域であり、そのスケート競技がもたらす力は脚力の強化、バランス感覚の強化、心肺機能の強化など身体的な発達のみならず、長距離を滑る事により得られる辛さを我慢する忍耐力など、精神的発達も期待することができます。

競技適合者には全国、オリンピックという目標も考えられます。また、胆力を養う事により、社会でも通用する人間に成長することが期待できます。

スピードスケート最先端地域であるこの地域と環境で、スピードスケートを…スケートの力はみなさん(子供たち)全員にかけがえのないものを与えてくれます。

「天 才は親が作る」。この言葉があるように、まさに勉強・運動に関する天才は親が作るものです。スポーツを行う環境を、子供は自ら選ぶ事はできません。子供たちがあらゆる場面で



長野市オリンピック記念アリーナ エムウェーブ

ゴールデンエイジ とは

お 子さまの感性が最も発達し、才能を開花するのに絶好の年齢帯というものがあります。この時期を「ゴールデンエイジ」と呼び、この年齢帯で身に付けた感性や技能は一生身に付き、離れることは無いと言われています。

その年齢帯の中心は「8～9才」です。

お子さまの感性を磨き、可能性と才能を開花させるならこの時期を活かすべきです。この時期は神経系の発達が著しく、**取り組んだことほとんど全てが出来てしまう**という「魔法の年齢帯」です。

本 来は少しずつ定着していく技術や感性も、この時期には驚くほどのスピードで体得が可能で、また一度できてしまうと大人になっても忘れないとされています。

この時期にたくさんの感覚と技術、**たくさんの経験を積むことが後になって大きな財産になる**のです。特に小学校低学年～中学年が最適な時期になります。

また、その時に培った感性や個性は違う人生を歩んだとしてもかけがえのないものとなるはずです。

クロストレーニング とは

ス ポーツの競技力向上のために、筋力・心肺機能あるいは持久力・瞬発力などの諸能力が片寄らないよう、**複数の運動やトレーニングを組み合わせる**行うトレーニング方法です。

例 えば、野球選手がオフシーズンに水泳をしたり、柔道選手が強化合宿でレスリングや相撲に取り組んだり、バスケットボールやテニスをしたりが、その例です。

ひとつに偏らないトレーニングをすることで、**身体機能のバランスが良くなり、パフォーマンスの向上やスポーツ障害の予防につながります**。

ひとつのことにばかり没頭することは、氷山の頂点ばかりを伸ばそうとするのに似て、確かに鋭い山になるかもしれませんが、その努力の約9割は水の中に沈んでしまいますし、ときに「スポーツ障害」や「燃え尽き症候群」を生み出してしまふことにもなりかねません。





卒団生の声を聞こう

僕は、小1から中3まで9年間少年団にお世話になりました。寒くて厳しい練習の毎日で何度も辞めようと思いました。

そんな僕が長く続けられているのは、コーチの方々や家族の叱咤激励^{※1}と切磋琢磨^{※2}し合える仲間がいたからだと思います。嬉しい時、楽しい時は一瞬で、辛い事がずっと多いですが、この経験は僕の自信となり成長させてくれました。

高校1年生の時、世界に繋がる大会で転倒してしまい、大きなチャンスを逃した事がありました。悔しくて人目も憚らず、号泣しました。その悔し涙が、自分を強くたくましく変えてくれました。

僕が頑張っている姿を後輩達に見てもらう事で、スケートの楽しさ、すばらしさを感じてくれたら嬉しいです。

もっともっと速くなって、世界で戦える選手になれるよう努力して行きますので、夢に向かって、一緒に頑張ってください！

※1 叱咤激励（しったげきれい）
大声で励まして、元気づけること。

※2 切磋琢磨（せつさたくま）
互いに励まし合い競争し合って、共に向上すること。



卒団後、白樺学園高校へ進学しスケートを続ける。高校時代は、世界ジュニア大会500m優勝。現在、日本大学で活躍中。ワールドカップ出場経験もあり次期オリンピック出場を目指している。

2013・14 ジャパンカップポイントランキング 500m 1位
2014

アジア距離別スピードスケート選手権大会 500m 優勝、1000m 2位
日本学生氷上競技選手権大会 500m 優勝

2013

ユニバーシアード冬季競技大会(トレンティーノ) 500m 金メダル
世界ジュニアスピードスケート選手権大会 500m 優勝、1,000m 5位
全日本ジュニアスピードスケート選手権大会(スプリント) 総合優勝
日本学生氷上競技選手権大会 500m 優勝

2012

ジュニアワールドカップ・ファイナル 500m 2位
世界ジュニアスピードスケート選手権大会 500m 2位
全日本ジュニアスピードスケート選手権大会(スプリント) 総合優勝
全国高等学校スケート選手権大会 500m 優勝、1,000m 3位

2011・12 ジュニアワールドカップ・ビュグン大会 500m 優勝

2011・12 ジュニアワールドカップ・エルフルト大会 500m 優勝

2011

世界ジュニアスピードスケート選手権大会 500m 3位
全国高等学校スケート選手権大会 500m 優勝、1,000m 2位

2010 全国高等学校スケート選手権大会 500m 2位

【ベストタイム】 500m 35秒22 / 1000m 1分10秒13

中標津スピードスケート少年団を卒団後、駒澤大学付属苫小牧高等学校に進学し、現在、東洋大学でスピードスケートを続けています。

小学1年生から競技をはじめましたが、今までスケートをやめたいと思ったことは一度もありません。少年団に入団して競技を行い、毎日ライバルと目標をもって練習して記録もどんどん伸びていったことでスケートの楽しさを知りました。それはコーチや父兄の皆さんのサポートのおかげだと思います。

コーチから上下関係や礼儀など人間として大切なことも教えていただきました。

中標津には設備の整った素晴らしいスケー



卒団後、駒澤大学付属苫小牧高校へ進学しスケートを続け、現在は、東洋大学スケート部で活躍中。

ア トリンクがあるので、もっと多くの人達にスケートの楽しさを知ってもらいたいです。



卒団生の声を聞こう

平成24年 卒団

帯広三条高校2年生 原中 美帆 ※平成26年度現在

MIHO HARANAKA



卒団後、帯広三条高校へ進学しスケートを続ける。中学時代は、全国大会へも出場し活躍、勉強とスポーツの両立を図り、進学校である帯広三条高校へ進んだ。

初 めてスケートを滑ったのは3歳の時でした。小・中学校で少年団に入り、今は帯広の高校に進学してスケートを続けています。

スケートは、とても寒い中での氷上練習や夏のリンクがない時期は走り込みなど、辛いことがたくさんあります。それでも、乗り越えることで心と身体を成長させることができます。

なにより、個人競技であるスケートは自分との戦いです。たくさん努力をして強くなり、タイムを伸ばす喜びを感じられることがスケートの魅力だと私は思います。また、遠征でいろいろなところへ行きみんなで泊まったり、楽しいことが沢山あります。

スケートを通じて知り合う仲間や指導者の方たちとの繋がり、人生の中でとても大きなものとなっていくと思います。私は、スケートをやっていてよかったと本当に思います。

平成11年 卒団

中標津スピードスケート少年団 コーチ 伊藤 淳 ※平成26年度現在

JUN ITO



卒団後、中標津高校へ進学、その後、専門学校を経て、中標津消防署へ就職する。

現在は、少年団コーチとして小学生の指導に当たっている。

小 学2年生から中学を卒業するまでの8年間、少年団でお世話になりました。

スケートの思い出といえば、寒い！辛い！というのがすぐに浮かんできます。しかし、続けることで目標であった全国大会に出場する事が出来ました。

私が少年団で、スケートはもちろんのこと、自分を支えてくれる方々への感謝の気持ち、自分に負けない心など沢山のことを学びました。今の自分が有るのはスケート少年団のおかげだと思っています。

年々、少年団の子供の数が少なくなってきて寂しい限りではありますが、スケートは心・技・体を鍛えられる素晴らしいスポーツです。

私は現在小学生を指導させていただいておりましたが、少しでもスケートの楽しさを伝えていきたいと思日々頑張っているつもりです。気になっている方は是非、体験しに来て下さい！

『集え若人、少年団員募集!!』



ま さか自分が大人になって子どもたちと一緒にスケートをしているなんて、少年団活動をしていたときは思ってもいませんでした。

上手にスケートを滑るお兄さんやお姉さんが本当にかっこよくて、いつも速くなりたいと思っていました。負けるのが嫌で、転ぶのが嫌で、下手なのが嫌だったけれど、練習したらその分少しずつ上手になって結果が出ると嬉しかったです。学校以外の友達がたくさん出来るのもすごく楽しかったです。

どのスポーツでも同じことが言えると思いますが、「個人競技」だからといってただ一人がむしゃらにやれば良いというものではないと思っています。

「環境を作ってくれている人」がいて「一緒に頑張れる仲間がいる」、その上で「自らががんばろう」という気持ちを持つ」ことで、一人だけでは得ることができなかった力を得られると思います。

スケートは寒いし、足は痛いし、腰は痛いし、つらいことがたくさんあるスポーツかもしれないけれどその分、うれしいことや楽しいことが何倍にもなって返ってくるスポーツです。

できないことが出来るようになる楽しみを沢



卒団後、中標津高校へ進学、その後、中標津町文化スポーツ振興財団に勤務する。

財団就職後、少年団コーチとして小学生の指導に当たっている。

山の子どもたちに知ってもらいたい、その子どもたちが友達や後から入ってくる小さな後輩たちに自然と教えてあげられるような活動をお父さんやお母さんやコーチと一緒に出来ると思っています。

子どもたちはこの経験がこんな風な気持ちにさせてくれると気づくにはもう少し後になってからだと思います。私がそうだったように。

そして、その気づいた時に改めて「やって良かった」と感謝の気持ちを持って人に育ってくれと信じています。

私 は姉の後ろを追いかけて3才からスケートを始めました。とにかく冬はひたすらスケートを滑る毎日を送っていました。

中学時代は、暖冬により、滑れない時期もありましたが、両親やコーチたちの指導と、中標津少年団からスケートで進学する先輩達の道筋もできていたのもあり、そのおかげで釧路へ進学することができました。卒業後は長野県の三協精機へ入社し、恵まれた環境で貴重な経験ができました。

スケートを通して厳しさだけでなく、尊敬する人たちに沢山出逢い、学び、今も交流があり現在も私を支えてくれています。また、高校時代の同期の仲間はそれぞれ家庭を持ち、母となりお互い忙しい日々を送っていますが、時々連絡を取り合うだけでも励みになる友人です。こ



卒団後、釧路星園高校へ進学しスケートを続ける。高校時代にインターハイ等で活躍し、その後、スケートの名門、現在の日本電産サンキョーへ就職し、数々の舞台で活躍した。

れからもスケートを通じて大事に積み上げた物、つながった縁を一生の宝物として、大切に過ごしたいと思います。



育成会からの声

「スケートの力」



中標津スピードスケート少年団 団長
※平成26年度現在 **蟻戸 昭智**

スピードスケートは、活動できる競技環境が整っている地域が全国でも少ない中、この道東地域は、冬季間の本格的なスポーツとして盛んに取り組まれています。

中標津町においても、平成15年に「中標津町運動公園スピードスケート場」がオープンし、スピードスケートに取り組む環境が非常に

恵まれています。

冬の厳しいスポーツ環境の中、スピードスケートを頑張る子供たちや少年団活動を支える保護者の『過酷さの中にある「充実感」』はなかなか他では経験できるものではありません。

子供たちにとっては、様々な活動に取り組んでいく中で、スピードスケートで培われる経験は精神的にも肉体的にも貴重な財産となることでしょう。

また、活動を支えてくださる保護者においても、子供たちが少年団活動に取り組んでくれるおかげで、人と人との繋がりや子供たちの日々の成長を間近で感じられる喜びがあります。

そして、厳しい環境から生まれる一体感と、「もっと支えてあげたい」と熱い気持ちにさせる力がスピードスケート少年団にはあります。

Q & A

中標津スピードスケート少年団から全国大会への出場者はどのくらいいますか。

次の表をご参考下さい。ほぼ毎年全国へ団員が出場しています。

年度	出場人数		備考
	男子	女子	
平成4年度		女子1名	中標津スピードスケート少年団育成会設立 ※新体制、新指導部で少年団の活動が開始される。
5年度		女子1名	
6年度			
7年度			
8年度	男子1名		
9年度	男子1名	女子1名	
10年度	男子3名	女子4名	
11年度	男子4名	女子2名	
12年度		女子2名	
13年度		女子2名	
14年度	男子1名		
15年度	男子3名		
16年度	男子4名		
17年度	男子2名	女子1名	
18年度	男子3名	女子1名	
19年度	男子3名	女子1名	
20年度	男子3名	女子3名	男子500m全国2位
21年度	男子5名		
22年度	男子2名	女子4名	男子500m 全国1位
23年度	男子3名	女子4名	男子1,000m 全国3位
24年度	男子1名	女子7名	女子1,000m 全国3位
25年度	男子5名	女子1名	

▼全国中学生スケート大会でのひとコマ



素朴な疑問に答えます

〔全国中学校体育大会スケート競技参加者数〕



「期待」

平 成9年度から本格的に指導するようになり、現在は監督として指導をしています。

釧路で小学5年生からスピードスケート少年団に入団し、大学までスピードスケートを続けていました。

昔は、スケート人口も多く少年団時代はリンクが混雑するため、各少年団には休みが与えられているくらいスケート人口が多かったものです。

現在は、どの市町村もスピードスケートに取り組む子どもが減少してきており、中標津町も同じような傾向にあります。

中学生までは1つの種目にこだわらず、他の競技をしながらでも冬はスピードスケートをしてもらいたいと思います。

その様に両立してきた卒団生の中には、スピードスケートを続けている高校生、大学生が頂点を目指して日々トレーニングに励んでいます。

一人でも多くの団員が高校と大学でスピードスケートを続け、将来は指導者として活躍してもら



中標津スピードスケート少年団 監督
※平成26年度現在 **松井 錦次**

たいと思います。

最後に、中標津町からスピードスケート選手としてオリンピックに出場する選手が出るのが今の願いと期待でもありますが、これからの地域スポーツ指導者の役割として、競技人口の増加が一番の課題になるかと思っています。

未来の日本のためにも！

親が毎日当番があり大変だと聞きました。気を遣うのが苦手な上、気を使われるのも申し訳なく思っています。



毎日の当番は、学年別(低学年1~3年生、高学年4~6年生、中学生)で行っており、内容はコーチや子供たちに飲み物を出したりする等簡単なことが多く、誰にでもできることばかりです。

また、親としても学校では見ることができない子供の成長を見ることができる機会です。子供と共通の話題でコミュニケーションが取ることもでき、とても貴重な時間です。

スケートは中学生で卒団となる少年団なので、一生に一度の成長の過程を見ることが出来ます。隣町の大会へ連れて行く等、大変な部分もありますが、それが後に貴重な時間となります。

父兄同士も助け合いですので、当番や役割を変わってもらったりすることも出来ます。他の少年団に比べ、組織の歴史が長く、またしっかりしているので、気兼ねなく参加できるのもいいところです。



回答：卒団生父兄



指導者の声

「スピードスケートの普及を目指して」



平成4年度から、少年団育成会を組織し、初代監督として平成24年度まで20年間団員の指導に当たる。現在、少年団アドバイザーコーチとして、スピードスケートの普及に取り組んでいる。

中標津スケート協会 理事長
中標津スピードスケート少年団 元監督

平間 健

私が少年団の指導を始めた平成2～3年頃は団員が60名程いたでしょうか、その後ピーク時には80名以上の団員をかかえるほどになりました。

スケート先進地のような決して恵まれた環境ではないのですが、この地方の冬はスピードスケートを行うことが習慣でした。

今もリンクには、沢山のスケート愛好者が訪れます。しかしながら、少年団に入団して本格的に

スピードスケートに取り組む子供は年々減少しています。

それは、当町のスケート少年団だけではなくスケート王国の北海道全体に言えることです。

近年、子供たちのスポーツ、取り分け野球やサッカーなどの夏場のスポーツが専門化されてきており、通年のトレーニングを行うことや、ひとつのスポーツに固執する傾向があり、冬季スポーツ離れの要因になっていると考えられます。また、冬場のスポーツは寒い、辛いという思いが自然と先行されているようです。

確かに、寒くて辛いかもしれませんが、せっかく北海道に住んでいるのですから冬季スポーツの魅力に触れ、多くの子供たちがスピードスケートを体験していただけることを望んでいます。

特に、小学生低学年の子供たちには、冬場の学校授業にも入っていることから、上達の間として少年団はお勧めです。是非、この機会に入団をお考えください。

Q & A

素朴な疑問に答えます

スポーツ少年団とはどのような活動を行うのですか。また部活とは何が違いますか。

スポーツ少年団の活動は、学校時間や家庭時間を除く自由時間に行い、活動拠点は学校内ではなく、地域社会の中にあります。

また、スポーツ少年団の主活動である競技スポーツばかりではなく、発育発達段階を考慮したスポーツ活動のほか、学習活動、野外活動、レクリエーション活動、社会活動、文化活動など幅広く捉えています。

こころもからだも大きな成長変化を遂げる時期には、このような多様なプログラムが必要です。そして、このような活動は、異年齢集団の特長を生かしながら、みんなで役割を分担し合い、自主・自立的に行うことが重要です。



中標津広報誌 2004年2月表紙より

【引用】公益財団法人日本体育協会日本スポーツ少年団 発行ガイドブック「スポーツ少年団とは」

わんぼいんと

8～9才＝ゴールデンエイジ、では8歳以下は？

5歳～8歳頃はプレ・ゴールデンエイジと呼ばれています。この時期では、非常に高い集中力を持ちながらも、常に多種多様な刺激を身体が求めるため、集中力が長続きせず、新しいものに興味に移っていくといった特徴をもっています。飽きさせないで楽しませるためには、多彩な身体運動を含む『遊び』を与えていくことが1つのポイントになります。ゴールデンエイジを生かすも殺すも、この時期次第といってよいでしょう。



卒団者 父兄の声

「地域で育む環境づくり」

3 人の子供は全員スピードスケート少年団にお世話になり、卒団(中学3年まで継続している者が卒団生となることが許される)することが出来ました。これは、スケート協会や指導員・少年団の仲間のおかげであり、感謝しております。一口に卒団と言っても様々な挫折や葛藤がある中、スケートを続けることができたことは、我が家族にとって大きな達成感と自信につながり、今後の人生に活かされると確信しております。

ここで、少年団や部活動について私が感じたことを書かせて頂きます。皆さんご存じの通りスケートは冬を主戦場とするスポーツです。我が子も夏は別のスポーツ、冬はスケートと年中暇なく飛び回っていました。小中学校の内は複数のスポーツを経験し、バランス良く成長してくれることが理想ではないかと今更ながらに感じております。

しかし、様々な事情で複数のスポーツをおこなうことを閉ざされてしまうケースもあると聞いております。小中学校がゴールではありませんので地域

全体で配慮したいものです。一方、学校の枠を超えた交流の場であるこれらの活動は、子供を大きく成長させるばかりでなく、親の人脈作りにも一役かってくれています。スポーツに限らず参加させたいものです。



中標津スケート協会 副会長
卒団(父兄)代表
金野 智樹

最後に、スピードスケート競技について触れさせていただきます。競技人口は少なく、メジャースポーツとは言えませんが、短距離においては世界トップクラスにあります。当少年団のレベルも複数団員の全国大会出場はもとより表彰台を勝ち取るなど高いレベルを維持しています。このことは、複数の指導員による小中学校に亘る一貫指導体制や町営リンクをはじめとする練習環境、しっかりとした育成会の存在が上げられます。言いかえると、全国のひのき舞台で戦えるチャンスがおおいにあるということ。あなたもこの環境に身を置いてみませんか？

育成会(育成母集団[※])とは何を行っていますか。

団員の父母等で構成されており、少年団の団長や団員、役員、指導者が常に快適な活動が行えるように年間を通して援助を行います。

スポーツ少年団は、生涯にわたってスポーツを楽しむことができる地域クラブを目指して活動する団体です。単に子どもたちだけの集団ではなく、やがては大人も含めた地域集団の形成を目標としているため、子供たちを財政面・労力面・精神面で支援するばかりでなく、地域に住むすべての大人自身もスポーツや文化活動を楽しむことができるシステムを地域に形成しようとする極めて重要な意味と役割をもっています。

※育成母集団という名称は、日本スポーツ少年団が独自に使用している名称ですが、単位団活動を支える「母体となる集団」という意味で、母親たちの集団ということではありません。

【引用】公益財団法人日本体育協会日本スポーツ少年団 発行ガイドブック「スポーツ少年団とは」



※写真はイメージです。



あれ？スケートの靴と刃がバラバラ？

氷を蹴る時にかかと部分で刃が離れ、キックした後にバネ仕掛けで戻る仕組みになっており、スラップスケートと言います。靴本体と刃(エッジ)で分かれており、それぞれ別に購入します。靴・エッジ共に種類が沢山あり、選手は自身の筋力や足に合わせて靴とエッジを組み合わせます。氷に長く力を伝えられる、足首の可動範囲が広がり疲れにくい、などの利点があるのが特長です。



Q & A

素朴な疑問に答えます

スケートはとてもお金がかかると聞きました。具体的には団の活動費以外にどのくらいかかりますか？

靴 自分のスケート靴が必要です。最初に入団する低学年(小学1~2年生)では学校の授業で使用している通常の学童スケート靴で問題ありません。

兄弟のいるご家庭ではおさがりを利用されることも多いですし、一部の市町ではレンタルのスケート靴もあるようです。

また、時期になると地元スポーツ店(中標津町ではテルイスports)で中古が販売されるので、合う靴があればそれを購入するのもひとつです。子供の足はどんどん大きくなるので、翌年それを売って別の靴を買うことで、費用を抑えることも可能です(足の大きさが落ち着く高学年~中学くらいまで)。ただし、靴の程度によりお値段が変わります。

服 服装も寒くない格好であれば大丈夫です。

競技用のワンピースは未使用のおさがりを貰ったり、安い物を購入して複数年使用する方が多いようです。本格的に揃えるのは「大会出場を目指す」「スピードスケートの選手を目指す」など本格的な活動に入る時点で大丈夫です。

インターネットで購入する方法もありますが、靴はカーボン製のため、温めて本人の足の形に強制する必要がありますので、地元スポーツ店で購入されることをお勧めします(テルイスports店の息子さんも卒団生です)。

料金は下記をご参考下さい(●はテルイスports店での販売価格です)。

S・S・S	Viking	MAPLE
● ノーマルスケート (靴と一体型のタイプ) ¥9,980(税込)~	【靴】 ● ゴールド2005 34~44インチ ¥92,000(税別)	【刃(ブレード)】 ● プリザード 30~45インチ ¥49,800~¥56,000(税込)
	【刃(ブレード)】 ● スプリントスラップ 34~44インチ ¥115,000(税別)	
※小中学校の授業で一般的に使用されるタイプのスケート靴です。	● PM1 34~44インチ ¥139,000(税別)	● ツインレーサー 30~45インチ ¥129,800(税込)~
● ワンピース(オリジナル) ¥12,000(税別)~	● 各メーカースケートワンピース ● とぎ台、砥石など (地元スポーツ店にお問い合わせ下さい)	

スケート靴、その他用具について詳細はお問い合わせ下さい。

また、テルイスports店ではスラップスケートのレンタルも行っています。

他 他にスケートの刃研ぎ^{※1}、ロック^{※2} 付け・ロック直し作業等も相談で行ってもらうことができます(有料)。

※1 スケートの刃研ぎ 練習や大会で消耗したブレード(刃)を研磨します。

※2 ロック ブレード(刃)は一見すると氷と接している部分はまっすぐになっていて、面で氷と接しているように見えますが、厳密にはミクロン(千分の一ミリ)で計測した場合、刃の反りのような曲線になっており、1点だけが氷と接している状態になっています。理論上、氷と刃の接する部分が少ない程、摩擦の抵抗が少なくなりスピードが出ます。

中標津スピードスケート少年団の一年間のスケジュールはどのようになっていますか？

以下のスケジュール表をご参考下さい。

 団員		育成会 
	4月	少年団前期総会 ◎在籍者による、新年度総会になります。
少年団夏季トレーニング* ¹ ◎小学高学年から、ローラースケート他。	7月	
少年団夏季トレーニング 合宿* ¹ ◎小学高学年から、ローラースケート他。 ◎帯広オーバルリンクにて、氷上のモチベーションを高めるために合宿を行います。	8月	「なかしべつ夏祭り」参加 ◎会員の親睦と、活動費を補うために参加します。 
少年団秋季トレーニング 合宿* ¹ ◎小学高学年から、ローラースケート他。 ◎帯広オーバルリンクにて、氷上のモチベーションを高めるために合宿を行います。	9月	
* ¹ 参加希望者により行います。他のスポーツも行っている場合は自由です。	10月	新入団員の受付と少年団後期総会 ◎新入団員を含めた、シーズンに向けての総会です。 ◎父兄により選出される役員や運営の役割分担、少年団の運営費捻出、団員や会員(父兄)との親睦を深める事業です。
少年団全体練習の開始* ² 参加希望者による釧路市での氷上練習の実施 ◎以下、全体練習は、2月末日の少年団納会まで行います。 * ² 毎日17:45～19:15までの練習となります。	11月	
氷上練習 町営リンク 《12月から2月末まで》	12月	リンク造成のお手伝い ◎リンクが使用できるまで、育成会で水まきのお手伝いをしています。 1人3回程度の手伝いとなります(10日～2週間程度の期間内で作業を分担)。
各種大会の参加 ・中標津町で開催される大会は、少年団の記録会を含めて3回です。 ・管内大会は、釧路市、根室市、別海町、標津町の大会に参加しています。 ・全道大会は、全道少年団大会、阿寒ジュニア、東北北海道大会に参加しています。 ※全道大会は一部参加資格が規定されています。		大会のお手伝い 中標津町で開催される大会、記録会へ大会役員・競技役員として参加しています。 ◎役割分担で行います。
	2月	少年団納会 ◎一年間の年度を締めくくる納会となります。本納会で卒団生の卒団式が行われます。

その他 中学強化選手(中学生団員)が、中体連(スケート競技)参加への支援を行っています。

中標津スピードスケート少年団募集要項

募集対象 小学生～中学生の男女

活動期間 10月下旬～12月中旬（陸上トレーニング）
12月中旬～2月下旬（氷上トレーニング）
シーズントレーニングの他、学年によっては夏期トレーニング、合宿等を行っています。

募集期間 毎年10月頃～（シーズン中募集）
中標津体育館で配布している指定の申込用紙に記入し、体育館窓口へ申し込みください。

活動費 小学生低学年（1～3年生） 14,000円
小学生高学年（4～6年生） 16,000円
中学生 18,000円

募集に関する詳細のお問い合わせ、お申し込みについては、中標津体育館（☎ 0153-72-2316）へ問い合わせください。

中標津スケート協会ホームページからも募集要項の確認、ダウンロードが可能です。

●中標津スケート協会ホームページ <http://n-speed.jp/index.html>



平成26年12月発行

監修 中標津スケート協会／中標津スピードスケート少年団
企画・制作 株式会社 広現社